



開催セミナー	2014年度アクティブラーニングセミナー 「新しい学びの空間づくりに向けて」
日時	2015年3月24日(火) 14:00～17:00
場所	雄飛館ラーニングcommons 2階 パフォーミングスペース
参加者	本学教職員 55名(教員30名、職員25名)
内容	<p>第1部 アクティブラーニング型授業実践事例報告 [事例報告者]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松尾 智晶 (全学共通教育センター准教授*) 2. 染谷 梓 (総合生命科学部助教*) 3. マコーマック・ノア (外国語学部准教授) 4. 鈴井 清巳 (外国語学部教授) 5. 他大学事例紹介 村上 正行氏 (京都外国語大学准教授*) 「外国語自律学習支援室 NINJA の実践事例紹介」 <p>第2部 グループディスカッション 「学生のスイッチが入るとき、切れるとき」をテーマに本学のアクティブラーニング型授業の導入・拡充のニーズを探るグループディスカッションが行われた。 ※2015年3月末日現在</p>

開催セミナー	2015年度アクティブラーニングセミナー 「アクティブラーニングなんかぶっ飛ばせ！」
日時	2015年6月24日(水) 13:30～15:30
場所	雄飛館ラーニングcommons 2階 パフォーミングスペース
参加者	本学・学外教職員 63名(教員29名、職員28名、学外6名)
内容	<p>第1部 すぐに使えるアクティブラーニングティップス紹介 講演 長谷川 伸氏 (関西大学商学部准教授) 30人規模の授業運営を想定した即効性のあるアクティブラーニングのノウハウと工夫を、より大規模な授業にも触れつつご紹介いただいた。</p> <p>第2部 グループワーク・アクティブラーニングお悩み相談 長谷川氏のコーディネートで、教室序列を崩す「なんでもバスケット」などアクティブラーニング型授業の場づくりを実際に体験した。また講演の感想をワンセンテンスでラベルに書いて紹介し合うワークなどを通じて、どのような学びが授業で実現できるか、その効果について考えを深めた。アクティブラーニングの実践に向けた悩みや疑問も会場で共有された。</p>

参加した教員の声より

「アクティブラーニングの難しい点は、知識を教えることだと考えていたが、事前に文献を簡潔に自分の言葉で要約する課題を出し、理解を促進するなど解決法があることが分かった。」
「新学期、第一回目の授業をアクティブラーニングで行いたい」などの声がアンケートに寄せられ、本セミナーは本学におけるアクティブラーニングの可能性を探る有意義な機会となりました。

参加した教員の声より

「アクティブラーニングは教員の促しが大切で、手間がかかるという難しいイメージから、スマートなイメージに変わりました」や「アクティブラーニングの神髄は学生が仲間との交流から学んでいくことだと気づきました」などの声がアンケートに寄せられ、本セミナーはアクティブラーニングの手法を通じて学習者中心の学びの重要性を認識する機会となりました。

「ネイチャー」年間論文掲載ランキング

国内私立大学で1位に！

京都産業大学は、世界で特に権威がある学術雑誌「ネイチャー」が発表した<Nature Index 2015 Global>の2014年4月1日～2015年3月31日において、「ネイチャー」や「サイエンス」誌の論文掲載件数で、国内私立大学で第1位になりました。国内大学全体でも第7位。本学の研究は、世界の科学界でその存在感を示しています。学生も、そのような世界トップクラスの研究に参加して学んでいます。



CERADES News Vol.5 2015年7月発行

編集 / 発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel : (075)705-1729
mail : kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL : http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/

CERADES News

～「思考力」「判断力」「表現力」の育成をサポート～

Jul. 2015
Vol. 5



学生主催アクティブラーニングイベント

セラデススタッフからのメッセージ

大学教育は「学生に何をどう教えるか」から「学生が何をどう学んでいくか」へと大きく変わろうとしています。この動きに先駆けて、京都産業大学教育支援研究開発センター (CERADES) では、学生・教員・職員が共に大学教育について語り合い、互いに学び合う場を提供してきました。それに加えて、学生が主体的に学べる環境の整備や支援体制をより充実させることで、これらの活動を全力で支援しています。

今号は、現在注目されている「思考力」「判断力」「表現力」の育成をサポートする取組みに焦点を当て、初年次教育科目でファシリテータとして活躍している先輩学生と、授業以外での学びをサポートする学習空間・学習支援スタッフについて紹介します。



京都産業大学 学生 FD スタッフ AC 燦
マスコットキャラクター
SUN ちゃん



Contents

p2 仲間と考える・表現するー理想の大学生活ー
先輩学生が新入生をサポートしています！！

p3 雄飛館ラーニングcommons
自ら学習し、成長し続ける力をつける場

p4 FD 活動の推進ーさらなる教育の進化に向けてー
アクティブラーニングセミナー実施報告

「ネイチャー」年間論文掲載ランキング
国内私立大学で1位に！

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、企画・取材・デザイン等の全てをセラデススタッフで製作している刊行物です。

CERADES (セラデス) は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

仲間と考える・表現する —理想の大学生活—

先輩学生が新生をサポートしています!!

キャンパスでは、新生達が「どのような大学生活を送りたいか?」「理想の大学生活とは!?!」と熱く大学生活について語り合っています。初年次教育で、グループ活動を支援するのは先輩学生「学生ファシリテータ*」。「去年はこんな発表があったね・・・」「うまく授業時間外に集まれる?」学生ファシリテータはグループにいつの間にか溶け込んで、新生達のグループワークを支援しています。

*ファシリテータ：グループによる問題解決や、アイデア創造、対話など、様々な学びを創り出す活動を支援し、促進して行く役割を担う人。授業やゼミ活動、会議、サークルボランティア等の様々なグループ運営において、場の活性化と個人々の自律的な行動を支えます。



新生の約3分の2である2000人を超える学生が受講する「自己発見と大学生活」。この科目は、7月の頭にクラス発表会、7月中旬に2クラス合同発表会を実施します。5~6人のグループで、独創的で説得力のある「理想の大学生活の過ごし方」を4分間のパフォーマンスで表現することを目標に、授業時間内外でのワークが行われています。

授業時間に、グループワークを支援する先輩学生「学生ファシリテータ」の中には、「人前で話せるタイプではないので、自分を変えたいと思ってファシリテータを志望しました」と、意外な動機を持つ学生も少なくありません。

「自己発見と大学生活」では、受講する新生も、学生ファシリテータの先輩学生も、初対面の人々と協働する、共に考える、何が良いか議論して判断する、考えた内容を表現する・・・そんな力を伸ばしています。

意気込んでいます!

活動1年目の学生ファシリテータの声 経済学部2年次生

サークルも面白いけれど、自分のためにもなり、人の役にも立てるこの活動に興味をもちました。新生と一緒に成長できるような空間を作りたい。私も少し前は受講生でした。受講生目線で授業に関わりたいです。



自ら学習し、成長し続ける力をつける場

雄飛館ラーニングcommons

京都産業大学 雄飛館ラーニングcommonsは、学生が相互に刺激を与えながら知的に成長するための「共創空間」です。ディスカッション、プレゼンテーションといったコミュニケーションに必要な活動を日常的に行うことで、予測困難な時代のなかで最善策を導くための基礎力と、主体的に学び、考える学習態度を養う場所です。

貸出用ノートパソコンやiPad mini™、プロジェクタ、備付モニタなどを利用して、画面を共有しながらグループで共同作業や、プレゼンテーションの練習をすることができます。

学生が自分の考えを表現する上で壁にぶつかった時は、常駐する英語・日本語の学習支援員が「指導」ではなく「対話」を通じて学生の「気づき」を促すサポートを行っています。論文の書き方、プレゼンテーションの原稿・スライド作成などで疑問に思うこと、助言が欲しいと思うことについて個別相談を受けることができます。また、定期的に英語エッセイの書き方、レポート作成、日本語プレゼンテーションのワークショップを開催しており、基礎的な「思考力」「判断力」「表現力」を身につける機会が得られます。



このような学習環境が整備された雄飛館ラーニングcommonsでは、学生が自ら問題を発見し、解決方法を考え、実践しながら検証する力を養っています。